

新病害ネギえそ条斑病の 発生生態の解明と防除技術の確立

平成26年6月、京都の九条ネギ産地においてネギアザミウマが媒介するアイリス黄斑ウイルス（IYSV）の発生が確認されました。本課題では、ウイルス病防除に有効性が示されている植物ワクチンの開発を目指し、現在はIYSV弱毒株の選抜に取り組んでいます。

ネギにアイリス黄斑ウイルス（IYSV）が感染すると…

葉身に
“黄色のえそ斑”
が形成されます。



えそ斑のある葉は取り除くため、

大きな収量減の原因になる

これに対して、

植物ワクチン*を予め接種することで、強い症状のウイルスの感染を防ぐことができます。

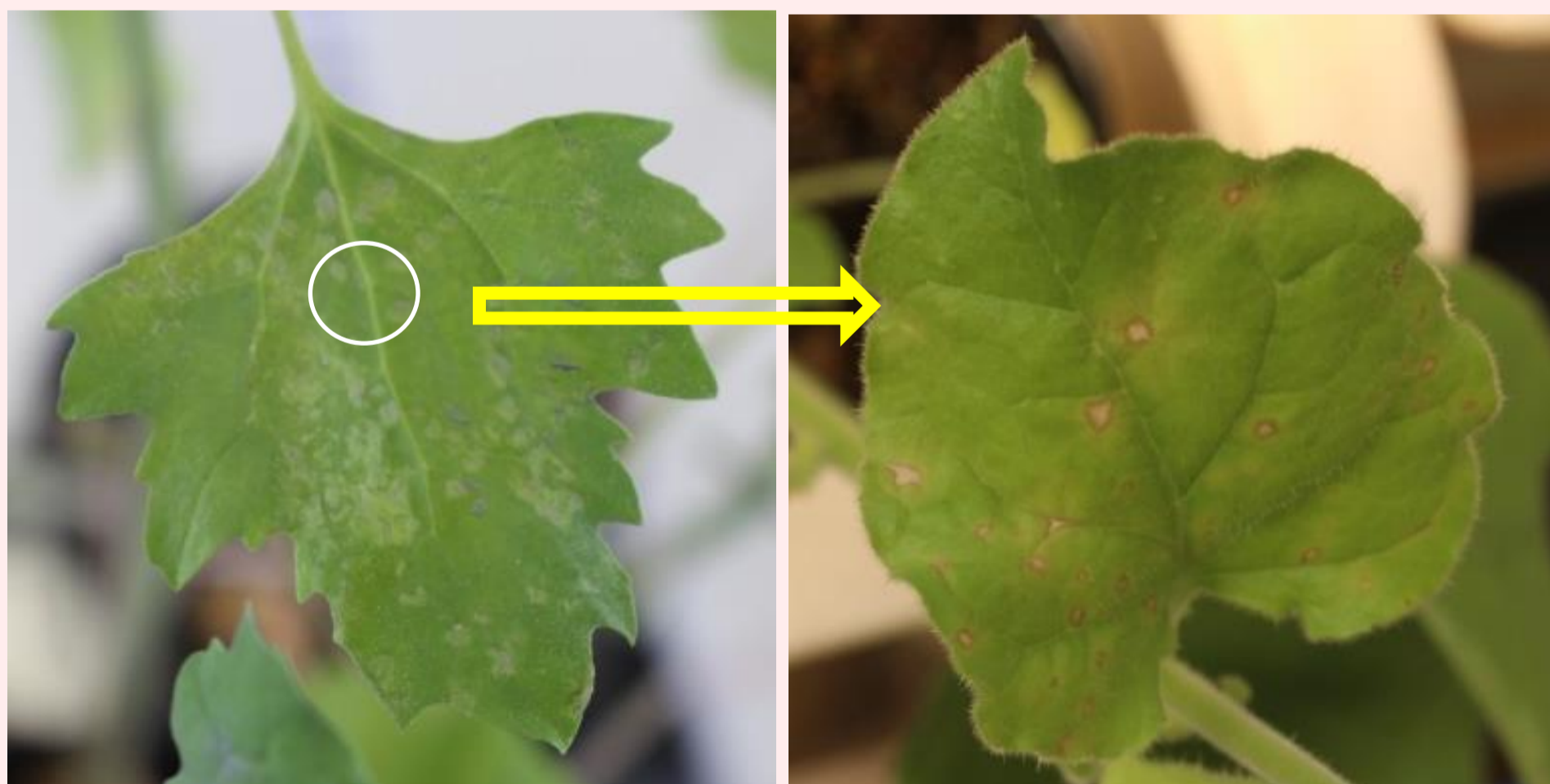
※植物ワクチン

：症状のほぼ無いウイルス株（弱毒株）のこと。



弱毒株選抜の流れ

単病斑分離



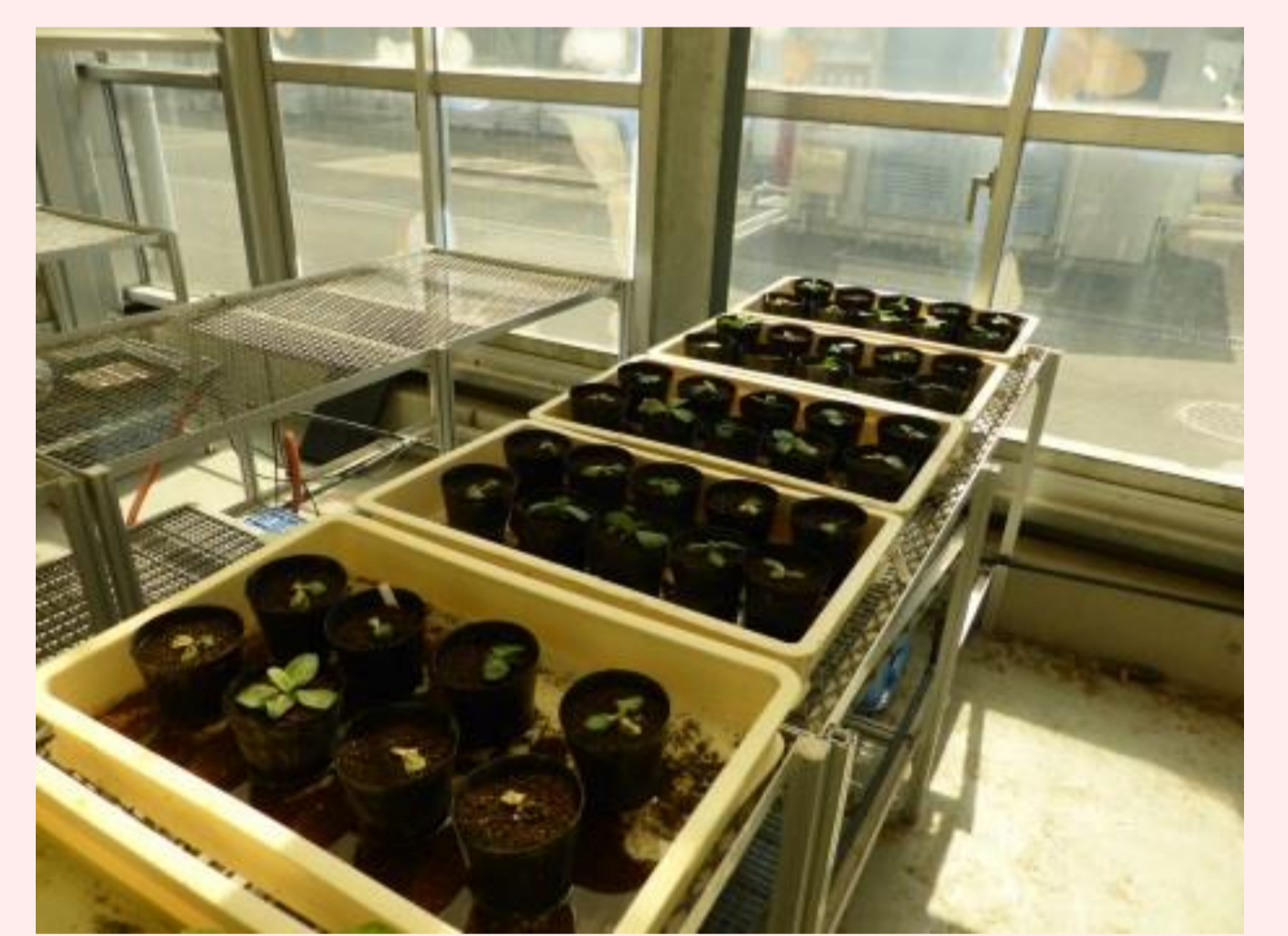
雑多なウイルスの中から継代に供試する株を決定します。

変異誘発



低温（15℃）で変異を誘発し、病原性の弱いウイルスを作り出します。

弱毒株の分離（SPI）



変異したウイルス株をトルコギキョウに感染させ、より安定した弱毒株を選抜します。

強毒株接種植物を継代し、低温で変異を誘発します。変異したウイルス株をSPIにより分離することで、病徴がほとんど無く、生育への影響が極めて少ない弱毒株を選抜します。

今後は、継代接種とSPIを組み合わせ、さらに弱毒化した株の作出に取り組めます。